

コスタリカ内政・外交定期報告（2012年10月～12月）

【要旨】

内政

- 公共事業運輸大臣、労働大臣、住宅大臣が交代し、チンチージャ政権を去った閣僚は17人に。
- 最高裁第四法廷（憲法法廷）の判事任期延長を巡り、国会と裁判所が対立。
- 2014年大統領選挙に向けて野党が連合結成に向けて動く一方で、与党国民解放党（PLN）ではフィゲーレス元大統領が不出馬を表明し、アラヤ市長とアリアス元大統領府大臣の一騎打ちに。世論調査ではアラヤ・サンホセ市長がアリアス元大統領府大臣との差を拡げている。（注：2013年1月、アリアス元大統領府大臣が大統領選撤退を表明したためPLNの候補はアラヤ市長に決定）
- 携帯電話回線契約を巡る汚職疑惑で、第一審で有罪判決を受けていたロドリゲス元大統領（キリスト教社会統一党（PUSC）、98年～02年）が、第二審で逆転無罪に。

外交

- 11月11日、チンチージャ大統領は、メキシコのケレタロで開催された第10回ビジネス・サミットに出席し、ペニャ・ニエト次期墨大統領と共に基調演説。また、12日、同大統領は、カルデロン墨大統領及びペニャ・ニエト次期大統領と会談。
- 11月17日、チンチージャ大統領は、スペインで開催された第22回イベロアメリカ・サミットに出席し、ルセフ伯大統領と伯の中米経済統合銀行参入などについて会談。
- 12月1日、チンチージャ大統領は、ペニャ・ニエト墨大統領就任式に出席。
- 12月4日、チンチージャ大統領は、当国を訪問した賈慶林・中国人民政治協商会議主席と国際問題について会談し、カスティージョ外相と中国貿易大臣との間で、複数の経済技術協力に関する協定へ署名。
- 12月11日、中米・EU連携協定をEU議会が承認。
- 12月17日、ゴンサレス貿易大臣をWTO次期事務局長候補として正式に擁立。

【本文】

I. 内政

1. 閣僚の交代

10月11日、チンチージャ大統領は新たに3閣僚を任命した。8月14日にジャシュ前公共事業運輸大臣が体調を崩して辞任して以降空席となっていた同職には、道路建設の専門家で、アリアス前政権（2006-2010年）で同省のインフラ担当次官を務めていたペドロ・カストロ氏が任命された。サンドラ・ピスク労働大臣が、駐イタリア大使に任命された夫に同行するために同大臣職を辞任することになり、後任にはオルマン・セグラ職業訓練庁

(INA) 総裁が任命された。イレーネ・カンポス住宅大臣が一身上の都合で辞任することになり、後任には、モンヘ元大統領（82-86年）の子息であり、かつて住宅次官も務めたギド・モンヘ住宅金融銀行総裁が任命された。マウレーン・クラーク女史が務める全国女性機構（INAMU）総裁職が閣僚級に格上げされることとなった。今回でチンチージャ政権を去る閣僚は政権発足後、延べ17人となった。

2. 国会情勢

野党市民行動党（PAC）に対する資金疑惑

野党第一党である市民行動党（PAC）が2010年の選挙資金として選挙最高裁（TSE）に申請した中に、実際には支払われていないものや虚偽の署名があった疑惑があるとして、10月19日、TSEが検察に訴えた。これを受け検察は、同党幹部等に対して捜査を開始した。2010年選挙の資金疑惑で調査が行われるのは、与党国民解放党（PLN）、自由運動党（ML）、コスタリカ刷新党（RC）に次いで4党目であるが、PACは清廉潔白を党の方針としてきただけに、党内外に波紋を拡げている。

3. 連立与党議員の会派離脱

11月5日、PASEの国会議員4人のうち、グラナドス国会議長を含む3人が、ポラス会派長は透明性及びリーダーシップに欠け、党の名誉を傷つける告発をしたとして、会派長を解任する決定を下した。6日、会派長を解任されたポラス議員は、国会におけるPASE会派離脱を発表した。但しPASEの党員は継続する。ポラス議員は「議員一人による独立した会派」を主張しているものの、グラナドス国会議長はこれを認めず、ポラス議員は各会派長が持つ各種意思決定権などは有さないとの見解を示している。

4. 最高裁判事の再任を巡る国会と裁判所の対立

11月15日、8年の任期満了を迎えた最高裁第四法廷（憲法法廷）のフェルナンド・クルス判事につき、国会は同判事の任期を延長しない旨議決した。憲法規定上、最高裁判事の任期は、国会において全議員の3分の2以上による否決がない限り、自動的に延長される。今回は与党PLNが主導し、ML、PUSC及びその他キリスト教系議員の協力を得て否決が成立した。モリーナPLN会派長は否決した理由につき、クルス判事の資質や実績とは無関係で、行き過ぎた権限行使でガバナビリティを弱体化させてきた第四法廷に警告を發し、権力の均衡を図るためとし、今後も判事の刷新を続けると述べている。

国会の決定に対して司法府は激しく反発し、「司法の独立への侵害である。与党会派長による脅しには屈さない。」とのコミュニケを發出し、またチャバリア検事総長は本件を「手続きに則ったクーデター」と批判している。また、モラ最高裁長官は国会議員のみならずチンチージャ大統領に対しても、本件に関して再考を求めた。これに対してチンチージャ大統領は、滞在先のスペインでインタビューに答え、本件は国会の権限内の問題であるとし

て、一旦は不介入の意思を示したものの、その後大統領の仲介により、大統領、モラ最高裁長官及びグラナダス国会議長の三者会談が開かれ、対応につき協議した。

今次決議に反対票を投じたフィッシュマン・キリスト教社会統一党（PUSC）会派長は、決議の手続き面に不備があったとして、11月19日、最高裁第四法廷に異議申し立てをした。フィッシュマン議員は、国会による最高裁判事の任期延長否決は、本来判事の任期終了前に行われるべきであり、既に10月に任期を終えているクルス判事の任期延長否決は憲法規定に反するとして決議の無効を訴え、市民行動党（PAC）など野党の一部も同調する動きを見せている。またフィッシュマン議員は、自分以外の全てのPUSC議員が党内の事前意思統一もなく任期延長否決票を投じたことを受け、PUSC会派を離脱する旨表明した。第四法廷はフィッシュマン議員の異議申し立てを一旦受理し、審議終了まではクルス判事の任期は継続されるとし、本件を巡る最終的な判断は第四法廷自らの手に委ねられることになった。

5. 2014年大統領選関連

野党連合結成に向けた動き

10月26日、市民行動党（PAC）及びキリスト教社会統一党（PUSC）の大統領予備選候補4人が、両党が2014年の選挙連合結成に向けて協力することを合意した。PACからはフアン・カルロス・メンドーサ議員及びルイス・ギジェルモ・ソリス氏が、PUSCからはペドロ・ムニョス氏及びロベルト・スニョル氏が署名した。他方で、両党はそれぞれ党内で対立を抱えており、PACの二人は同党創設者のオットン・ソリス氏と距離を置き、PUSCの二人はカルデロン元大統領と距離を置くグループに属している。また、PACのクラウディオ・モンヘ議員（既に予備選出馬を表明）及びエプシー・カンベル女史（予備選有力候補の呼び声が高い）は参加していない。

10月27日、オットー・ゲバラ自由運動党（ML）党首は、PUSCのカルデロン元大統領を中心とするカルデロン・グループ（*Convergencia Calderonista*）の会合に出席し、カルデロン元大統領との間で、2014年選挙に向けた連合結成を目指すことを合意した。カルデロン・グループは、PUSC内でPACと接近するグループと対立しており、党内で疎外されていると述べている。MLとカルデロン・グループの統一候補はオープンな予備選で選ぶ方針で、カルデロン元大統領は、自身は立候補せず、グループ内の候補を推す旨述べている。またゲバラML党首も12月、野党連合が結成されることを条件に、次期大統領選に出馬しないことを明言した。

6. フィゲーレス元大統領の次期大統領選挙不出馬表明

10月31日、ホセ・マリア・フィゲーレス元大統領（PLN、94年～98年）はプレス・リリースを通じて、2014年大統領選挙に立候補しない旨発表した。また、今後は自ら立ち上げた政治プロジェクト「コスタリカの道（*Via Costarricense*）」に集中するとし

た。フィゲーレス氏の発表により、与党 PLN 予備選に立候補を表明しているのはジョニー・アラヤ・サンホセ市長、ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣及びフェルナンド・ベロカル氏の3氏となり、事実上アラヤ氏とアリアス氏の一騎打ちの様相を呈してきた。

7. ロドリゲス元大統領への無罪判決

携帯電話回線の契約を巡る汚職等の疑惑を審理してきた所謂 ICE-ALCATEL 訴訟に関し、ミゲル・アンヘル・ロドリゲス元大統領（PUSC、98年～02年）は、2011年第一審において賄賂教唆の罪で懲役5年、公職就任禁止12年の判決を受けていたが、12月21日、ゴイコチェア控訴裁判所の判決が下され、逆転無罪となった。無罪となった理由は、一連の賄賂授受の証拠とされてきたパナマの銀行取引に関する情報が、裁判官の許可を得ずに入手されたために証拠として認められなかったこと、及び本件を検察が起訴した段階で時効を迎えていたことが挙げられているが、詳細については後日発表される見通し。今回の判決により、ロドリゲス元大統領の他に7人の関係者も無罪となった。検察は、後日発表される判決の詳細を待つとしながらも、最高裁第三法廷へ上訴する見通しを示している。

8. 世論調査

UNIMER社の調査

10月3日～11日まで、全国I、200人を対象に実施。

●チンチージャ政権の施政

非常に良い・良い：12%（前回7月は13%）

悪い・非常に悪い：53%（同53%）

●与党 PLN の次期大統領選予備選候補者支持率（PLN支持層限定）

ジョニー・アラヤ・サンホセ市長：32%（前回7月は23%）

ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣：16%（同22%）

CID-GALLUP社の調査

12月8日～12日まで、全国852人を対象に実施。

●チンチージャ政権の施政

非常に良い・良い：30%（前回9月は33%）

悪い・非常に悪い：60%（同60%）

●与党 PLN の次期大統領選予備選候補者支持率（PLN支持層限定）

ジョニー・アラヤ・サンホセ市長：52%（前回10月は32%）

ロドリゴ・アリアス元大統領府大臣：18%（同25%）

II. 外交

1. マルチ関係

カスティージョ外相の国連総会での一般演説

10月1日、カスティージョ外相は国連総会における一般演説を行い、ニカラグアがICJの仮保全措置を遵守せずコスタリカに侵入を継続していること、コスタリカの治安が改善されていること、コスタリカの環境面での取り組み、中米治安状況に対する憂慮、国連の麻薬組織に対峙するための役割、コスタリカをはじめとする中所得国は気候・社会・経済が脆弱なので今後とも国際社会の協力が不可欠であること、国際社会は早急に気候変動による自然災害問題に取り組む必要性がある旨述べた。

2. 地域機関関係

(1) チンチージャ大統領の第22回イベロアメリカ・サミット出席 (往電第1023号)

11月17日、チンチージャ大統領は、スペインで開催されたイベロアメリカ・サミットに出席し、中米地域は50年間にわたって経済統合を維持してきており、通商協定ブロックとして交渉してきており、各国の政治体制の違いは互いに理解している旨述べた。また、カスティージョ外相は、コスタリカはエンジニア及びテクノロジーの分野の人材が不足しているため、スペインの若者を受け入れる用意がある旨述べた。同サミットにおいて、2014年4月にコスタリカのリベリアで、イベロアメリカ地域の現在の政策意思決定者と若手政治リーダーの2世代が、気候変動について協議するための会合を開催することが採択された。更に、同日、チンチージャ大統領は、ルセフ伯大統領と会談し、2008年にコスタリカが当時のルーラ伯大統領と合意した伯が中米経済統合銀行に参入することを進展させるよう要請した。

(2) SICA関連

12月15日、ニカラグアで開催された中米統合機構(SICA)首脳会合に、チンチージャ大統領の代理として出席したカスティージョ外相が、14日に在ニカラグア・コスタリカ大使館の開所式に、ハビエル・サンチョ駐ニカラグア・コスタリカ大使とともに臨んだ。カスティージョ外相は、在ニカラグア大使館の役割は、ニカラグア国民に対する開かれたドアであると同時に、ニカラグア及びそのメディアからコスタリカが日々受ける攻撃に対する最前線でもあると述べ、サンチョ大使に対して、ニカラグアのメディアによる情報操作に対抗するよう求めた。また、2013年1月に行われるアレマンSICA事務局長の後任選出に対して、カスティージョ外相は、パナマが擁立するベルナガ元貿易大臣を支持する旨表明した。ベルガラ元貿易大臣が当選すれば、初の女性SICA事務局長になる。

3. 人権関係

米州人権裁判所による試験管受精を巡るコスタリカ非難判決

12月20日、試験管受精を認める法整備を進めなかったコスタリカ政府に対し、米州人権裁判所がコスタリカ政府による人権侵害を認め、原告への損害賠償（合計415千ドル）及び必要な法整備を義務づける判決を下した。またコスタリカ政府は、本判決を受けて採った措置について、6ヶ月以内に同裁判所に報告しなければならない。これを受けてチンチージャ大統領は滞在先のグアテマラからツイッターでコメントし、「法治国家として本判決を尊重する。」と述べた。

4. 中米関係

(1) ロボ・ホンジュラス大統領の当国訪問

10月4日、ホンジュラスのロボ大統領がコスタリカを訪問し、チンチージャ大統領と会談し、治安及び観光などのテーマについて協議した。チンチージャ大統領は、両国の治安当局が情報交換を行い、司法や警察のオペレーションを共同で実行することが、犯罪対策上有益である旨強調した。これに対し、ロボ大統領は協力していく用意があると述べ、また、麻薬消費国に対して、麻薬取引を抑制させるためのキャンペーンや手段を講じるよう要求していくことが肝要であると述べた。また、観光については、コスタリカは、エコツーリズム、持続的観光、農村観光などのコスタリカの経験をホンジュラスと共有することに同意した。

(2) チンチージャ大統領のグアテマラ訪問

12月21日、チンチージャ大統領はグアテマラで開催されたマヤ暦5、200年の時代終焉記念式典に出席した。

5. メキシコ関係

(1) 当国とメキシコの戦略的パートナーシップ合意

10月25日、エスピノサ墨外相が当国を訪問し、カスティージョ外相と、戦略的パートナーシップ合意に係る第1回会合を行った。右会合について、エスピノサ外相は、中米では唯一コスタリカとこの種の合意を締結しており、「関係と対話を強化させる素晴らしいツールである」と述べた。一方、カスティージョ外相は、「審議会を設置は大変重要である。今後、両国はパートナーとして、バイ、マルチに対応していくことを明確にするものである。」と述べた。また、両外相は、二国間関係、地域及び国際社会について会合し、経済協力、治安、SICA, CELAC, 国連安保理改革、通商について協議した。

(2) チンチージャ大統領のメキシコ訪問

11月11日、チンチージャ大統領は、メキシコのケレタロで開催された第10回ビジネス・サミットに出席し、メキシコのペニャ・ニエト次期大統領と共に、基調演説を行った。

同大統領は、同演説の中で、コスタリカとメキシコ両国の友好、連帯、通商、投資、協力の歴史的絆を強調し、メキシコがコスタリカにとって世界で最初の FTA 締結国であることを強調し、FTA を締結してから両国貿易取引は 19 倍に増加した旨述べた

12 日、チンチージャ大統領は、カルデロン大統領との会談において、先の 10 月 25 日に発足したコスタリカ、メキシコ両国の「戦略的パートナーシップ合意委員会」が、政治、協力、通商、投資の各分野で素晴らしい成果を出すことを期待している旨述べ、カルデロン大統領は、コスタリカの太平洋同盟への加盟をサポートする旨表明した。また、チンチージャ大統領は、ペニャ・ニエト次期大統領と両国の協力関係強化について会談し、「戦略的パートナーシップ合意」に則って、両国関係を強化させるために、ペニャ次期大統領を 2013 年早々にコスタリカに招へいし、コスタリカ・メキシコ首脳会談の実施を提案した。

(3) チンチージャ大統領のメキシコ大統領就任式出席

12 月 1 日、チンチージャ大統領は、ペニャ・ニエト次期メキシコ大統領就任式典に出席し、その後、その後、国家元首を招待した昼食会に出席した。

(4) メキシコとの外相会談

12 月 13 日、第 40 回 SICA 首脳会合にチンチージャ大統領の代理として出席するためにニカラグアを訪問中のカステイージョ外相は、同首脳会合にオブザーバーとして出席するミード墨外相と現地で二国間会談を行った。同会談で両外相は、コスタリカが SICA 議長国を務める期間中、ペニャ・ニエト墨大統領がコスタリカを訪問する可能性につき協議した。その他両外相は、二国間及び域内の協力プロジェクトについて協議した他、カステイージョ外相がコスタリカの太平洋同盟正式加盟の希望に言及したのに対し、ミード墨外相は右加盟に強い関心を示した。

6. コロンビア関係

(1) チンチージャ大統領のコロンビア訪問

11 月 2 日、チンチージャ大統領は、コロンビアの国家警察創立 121 周年記念式典に出席し、同国のサントス大統領から、文民のカテゴリーで治安関係の顕著な功績を残した人材に授与される「警察の星」賞を授与された。右式典には、ホンジュラスのロボ大統領も出席し、サントス大統領は、「将来、コスタリカ、ホンジュラス及びコロンビアの国家関係及び警察関係がよりダイナミックかつ有効に機能することを切望する。」と旨述べた。

(2) ニカラグア対コロンビア「領土及び海洋紛争」事件

11 月 19 日、当国外務省は、プレスリリースを通じて、ICJ が発出した「領土及び海洋紛争」事件（ニカラグア対コロンビア）判決について、「コスタリカ外務省は、本日、I

CJが発出した「領土及び海洋紛争」事件（ニカラグア対コロンビア）判決をテークノートし、内外の報道機関が当省に寄せた照会について、特にコメントは発出しない。但し、本判決が、カリブ海におけるコスタリカの権益に及ぼし得る影響について、近日中に包括的にチェックする。」と言及した。

7. 欧州関係

(1) アルメニア外相の当国訪問

10月25日、カステイージョ外相は、当国外務省でアルメニアのナルバンディアン外相と会談し、今後の両国間の政治、経済協力、通商、文化、学術関係の強化の可能性について協議した。その後、ナルバンディアン外相は、当国国会を訪問し、グラナドス国会議長と会談した。当国とアルメニア両国は、1997年4月8日に外交関係を樹立し、アルメニア外相が中米を訪問するのはコスタリカが初である。

(2) カステイージョ外相のセルビア訪問

11月22日、カステイージョ外相は、セルビアのニコリク大統領と会談し、同外相は、コスタリカが2013年上半期にSICA議長国に就任すること、2014年にCELAC議長国に就任する旨及び太平洋同盟について言及した。右に先立ちカステイージョ外相は、メルキック外相と会談し、国連安保理改革及び総会機能の強化について協議した。2012年から2014年にかけて、ジェレミック前セルビア外相が国連総会議長を務める。また、カステイージョ外相は、学術、科学、文化、スポーツ、農業、環境などについて関係を強化していくことにコスタリカとして関心を有している旨言及した。コスタリカには国連平和大学の本部があり、セルビアには欧州平和開発センター（同大学の支部）があるとの共通性について言及した他、メルキック外相は憲法規定により、コスタリカがGDPの8%を教育に充てていることを称えた。

(3) カステイージョ外相のオーストリア訪問

11月19日、カステイージョ外相は、2012年南南開発国連万博に参加するためにオーストリアを訪問した。カステイージョ外相は、円卓会議の席で南南協力の重要性を強調し、国際社会はコスタリカのような小国が発展することの困難さを認識するべきである旨述べた。20日、カステイージョ外相は、オーストリアのシュピンドルエッガー副首相兼外相と会談し、両国関係強化及び新たな協力関係構築について協議し、両者は、中米EU連携協定の早期批准について協議し、右は両地域に裨益することで意見が一致し、また、両者は両国共に国連人権理事会の理事国として、人権分野において協働関係にあることを強調した。更に、シュピンドルエッガー副首相は、オーストリアはコスタリカのOECD加盟を支持する旨確認した。

8. カナダ関係

カナダ下院議長他国会議員団のカスティージョ外相との会談

10月10日、カナダの下院議長他同国の国会議員合計4名が当国を訪問し、カスティージョ外相と会談した。また、11日、カナダ議員団は、コスタリカ国会を訪問した。カナダからの国会議員一行がコスタリカに来訪するのは今回が初めてで、同一行はカナダと中南米諸国の伝統的関係強化の目的で、チリ及びコスタリカを訪問した。カナダはコスタリカ及びチリとF T Aを締結しており、現在も有効である。コスタリカとカナダは、経済協力、政治対話など緊密な友好関係を構築している。

9. 中国関係

賈慶林・中国人民政治協商会議主席の当国訪問

12月4日、チンチージャ大統領は、賈慶林・中国人民政治協商会議主席と大統領官邸にて会談し、友好協力関係を再確認すると共に、国際問題について協議した。また、カスティージョ外相と中国貿易大臣との間で、複数の経済技術協力に関する協定への署名が行われた。第一に、4.8百万ドルの無償資金協力、第二に、右と同額の有償資金協力である。双方とも、使途については、二国間で協議の上決定される。更に、中国語の教師6名を2年任期で職業訓練庁(他)への派遣、中国が供与した国立スタジアムに係るポンプ設備及び日常の稼働・管理業務に関する専門家による技術支援を行うための交換公文等が取り交わされた。本会談では、以上の他、インフラ、貿易、投資、公共治安、観光、教育について協議された。

10. 中東関係

カスティージョ外相のトルコ訪問

10月30日、カスティージョ外相は、トルコを訪問し、同国のギュル大統領と会談した。ギュル大統領は、トルコとコスタリカがF T Aを締結する必要性の重要性を強調し、両国政府は、トルコ企業がコスタリカに投資するための法的枠組みを整備すべきである旨述べた。また、両者はシリア問題や国連改革などの国際社会のテーマについて共同で取り組むことで一致した。カスティージョ外相は、ギュル大統領との会談に先立ち、ダウトオール外相と会談を実施し、両外相は、両国間に直行便を開設するための協議を実施すること、及び投資保護協定の締結について協議をした。また、両外相は、奨学金、自然災害予防、環境、外交官アカデミーなどの二国間協力について協議し、シリア問題や国連改革問題などの多数国間問題を解決すべく協議した。